

# 令和3年度 松江農林高等学校 学校評価表

経営目標	重点目標	主管	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	評議員評価
						A	B	C					
安心・安全の保障	明るい校風づくり、マナーアップ指導の充実により、よりよい学校文化の醸成	生徒指導	ルールやマナーを守り規範意識を高める	登校指導や自転車の鍵かけ指導を常時行う。	無施錠を3回以上繰り返す生徒数	10人以下	11~20人	21人以上	27	C	1年生と3年生の無施錠が目立った。駐輪場での呼びかけも必要に思う。	C	B
				携帯電話の管理と使用に関する指導を適宜行う。	携帯電話の不正使用による指導を要した生徒数	15人以下	16~30人	31人以上	31	C	1年生のルール違反が目立った。2学期に2桁を数え違反が集中していた。	C	B
				身だしなみ指導を各学期の始まりと学期末の2回行う。	指導により身だしなみが改善した生徒数	10人以上	5~9人	4人以下	15	A	身だしなみについて改善した数値だが、服装指導慣れした感がある。スカートの折り曲げとスカート下のジャージやブレザー下のパーカー着用が増え、だらしない服装をする者が目に付いた。全教職員で統一して毎日の指導・注意が必要に思う。	A	B
	生徒支援・相談体制の充実 健康教育に係る計画的な実践活動及び講習会の実施と健康情報の発信	保健	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する。	生徒の健康状態を把握し、個々に応じた適切な対応や指導を行う。	健康チェックの提出状況	80%	70%	60%	80%	A	担任の先生のご協力のおかげで目標の80%は達成できた。感染拡大防止のためと自己健康管理も含め自ら実施できるように意識付けたい。	A	A
				健康に対する保持増進の自覚を持たせ、適切に行動できるよう指導を行う。	ホームページに挙げた回数	3回	2回	1回	3回	A	今年度は保健だより、歯科講話に関して挙げた。今後も継続し生徒・保護者へ伝えたい。	A	A
	明るい校風づくり、マナーアップ指導の充実により、よりよい学校文化の醸成 安全・安心な環境づくり	安全・安心な学習環境を目指し、環境・美化意識の向上に努める。	安全・安心な学習環境を目指す、環境・美化意識の向上に努める。	1)学校薬剤師や事務室と連携し生徒の学習環境を整える。 2)生徒が安全な学校生活が送れるよう安全点検を行う。	安全点検の実施率	95%	90%	80%	93%	B	発信は各学期に1回と年度初めの2回のみであった。5月以降は継続相談の生徒と教員の働きかけからの生徒で予約が埋まり、広く利用を促す働きかけを行わなかった。来年度は利用状況を見て、発信したい。	C	B
				生徒保健委員会を中心に校内美化に努め、マナー意識や規範意識を高めるとともに、愛校心や郷土愛を育む。	清掃点検を実施した回数	20回	15回	10回	3回	C	学期に1回程度しか点検を行えなかった。次年度は、年度当初から保健委員会で計画を立てて実施していきたい。	C	C
	人権教育の推進及び道徳教育、特別支援教育的視点を位置づけた授業や行事の展開 生徒支援・相談活動体制の充実	人権教育	自他の人権を尊重し合う豊かな人間関係の形成の支援に努める。	いじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの実態把握と早期発見・早期解決に努める。	学校評価アンケートにおいて、いじめアンケートの効果について肯定的な回答をした生徒の割合	80%	70%	60%	82%	A	いじめアンケートの結果を踏まえて、担任の先生方には速やかに面談をしていただいた。2学期はインターネットを使って実施し、省力化を図った。来年度も継続したい。	A	B
				アンケートQUを実施し、情報共有の機会を持ち、結果を効果的に活用する。	学校評価アンケートで、アンケートQUの効果について肯定的な回答をした教員の割合	80%	70%	60%	96%	A	気にかかると生徒に組織的に対応できるように、個人情報には配慮しながら、適切に情報共有を図りたい。	A	B
				各学年部との連携のもと、生徒の実態に即した人権教育、道徳教育を推進する。	学校評価アンケートで、人権教育に関するHR活動の効果について肯定的な回答をした生徒の割合	80%	70%	60%	89%	A	各学年部で事前に指導案を検討し、共通理解をしたうえでクラスの実態に応じてアレンジしていただいたことが、生徒の有意義な学びにつながったと思う。	A	B
1年生対象にHR活動を行い、特別支援教育に対する生徒の理解を深める。				HR実施後のアンケートで、特別支援教育に対する理解が深まったと感じた生徒の割合	80%	70%	60%	98%	A	自分が思いもよらないようなことに困難を感じる人がいることについて、多くの生徒が理解が深まったと考える。ここでの意識が薄れないように日々働きかけていきたい。	A	B	
人権教育の推進及び道徳教育、特別支援教育的視点を位置づけた授業や行事の展開	特別支援が必要な生徒に対して効果的な支援を行う。	教員対象の研修会や情報発信を行い、共通理解のもとで支援を進める。	研修会後のアンケートで、特別支援教育に対する理解が深まったと感じた教員の割合	80%	70%	60%	95%	A	さまざまな理由から支援を必要としている生徒がいるということについて、共通理解が図られてきていると考える。今後さらに授業や日々の関わりの中で実践が浸透していくように働きかけたい。	A	B		
			安全・安心な環境づくり	農場	実験・実習をとおして農業教育の推進する	安全管理をおこない事故のない実験・実習を行う	実験・実習中に起こったケガ等の数	重大事故:0 けが:0	重大事故:0 けが:5	処置が必要なけが:10	重大事故の処置が必要なけが:10未満	B	今年度は特に大きな事故・ケガ等はなかったが、園場各所で施設の改修工事が行われ、大型車両・重機等の往来が増えた事への対応が必要となった。
安全・安心な環境づくり	事務	施設・設備の適切な整備及び維持保全管理を行い、安全・安心な学習環境づくりに資する。	施設・設備の維持保全や速やかな修繕対応を行うとともに、備品の適正配置と計画的な整備に努める。	生徒、保護者が学校の施設・設備の整備及び管理状況について、適切だと思っている割合	80%	70%	60%	90.6%	A	校舎等維持補修費、スマート専門高校の実現事業等の各種予算を活用して施設・設備を整備した。R3年度は、特に実習機器等のデジタル化対応設備の整備を進めることができた。学科改編時からの施設など老朽化した施設・設備の整備を図るよう進めて参りたい。	A	A	
学びの保障	課題研究の高度化 生徒の自治能力の育成	総務部	松農発表会を魅力化の推進する成果発表の場と位置づけ、発表内容や運営の質の向上をはかる。	1)農業クラブ、生徒会、家庭クラブと連携し、役員を中心にした運営を行う。 2)発表技術の向上と発表内容の質を高める。	事後の生徒アンケート、来場者アンケートでの肯定的評価	80%	70%	60%	98%	A	本年も外部の方に見て戴くことはできなかった。また、初めての試みで、学校でのレポート開催となったが、発表者、運営の生徒は事前研修を経て、当日堂々とした良い発表であった。特に課題研究発表は一年間の集大成として成果あるものであった。	A	A
				基礎・基本の確実な定着及び思考場面の創出	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	特色ある新教育課程を編成する	申請完了	再編成必要	申請未完了	1学期に申請完了	A	教育課程について、各科・教科に協力していただき、予定通りの1学期に申請、受理された。来年度以降は基本的に継続になる。	A
	教科ごとの授業達成目標の設定	教務部	授業改善を進化させる	アンケート項目(か)の評価の平均値	90%以上	85%以上	80%以上	90%	B	授業改善について1学期3.66、2学期3.56 平均3.58×4(満点)/100=89.5で惜しくも届かなかった	B	B	
				生徒会、部活動、農業クラブ、家庭クラブなどの活動を通じた生徒の自治能力の育成、主権者教育の推進及び各委員会活動の充実	諸活動を通じて協調性を高め、他を思いやる心を育てる	校内(体育祭、収穫祭等)での諸活動を通じて、クラスや学校の連帯感を高める。	諸活動に対する満足度(学校評価アンケートより)	80%	70%	60%	91%	A	コロナ禍、制約がある中でも生徒は頑張って活動していた。
	基礎・基本の確実な定着及び思考場面の創出 課題研究の高度化	図書研修部	生徒主体の図書委員会活動を活性化させる。	1)図書館オリエンテーションや朝読書、広報活動等により、読書活動の推進を図る。 2)生徒向けのORや職員との連携により、各教科の図書館活用の推進を図る。	イベントの実施回数	3回以上	2回	1回以下	2回	B	1学期は本紹介のPOP作成、2学期は一斉読書会の運営準備を行った。次年度は3回は実施したい。	B	B
				人間性豊かな人材育成のため、教員の資質向上を図る。	校内研修を実施する。	職員会議後の校内研修の実施回数	6回	5~3回	2回以下	11回	A	計画通りに実施できた。次年度は、当初に図書館利用に関する研修を計画したい。	A
	基礎・基本の確実な定着及び思考場面の創出 課題研究の高度化	魅力化推進室	課題研究の高度化	校内における新規性・社会性・科学性のある研究の推進	連携研究に取り組んだ数	15	12	10	14	B	運営マネージャーと連携のもと、課題研究の高度化に取り組んだ。鳥根大学とは、生物資源科学部の先生方にご指導をいただき、8つの研究を行うことができた。県立大学とは、研究の方法をWebで教授にご指導いただく連携力を入れた。大根島をフィールドに3つの研究をテーマに取り組むことが決まり、動き出している。	B	B
				校外へのPR活動の推進	積極的に取り組むことができたか	15	12	10	13	B	ホームページへのアップは令和元年162回から令和2年度11月末で250回と格段に伸びた。授業の様子、各行事の様子をホームページにアップした。9月からは、松農新聞を発刊し、学校のPRに努めた。	B	B
	基礎・基本の確実な定着及び思考場面の創出 課題研究の高度化	農場	課題研究の高度化や学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する	地域・上級学校との連携・協働した研究を実践する	課題研究における研究の数	15	12	10	17	A	鳥根大学・県立大学との連携研究及び八木町をフィールドとした地域解決型研究に取組み、一定の成果をあげることができた。課題としては研究の高度化と指導体制の在り方を検討する必要がある。	B	B
				農業クラブ活動を活性化し、学習活動を行う	県大会における最優秀の数	最優秀2 優秀賞15	優秀賞10	優秀賞5	最優秀1 優秀賞17	B	今年度は鑑定競技全国大会において3名の入賞者を出すことができた。今後の活性化を推進する意味でも、全国での結果を評価基準に織り込む必要がある。	B	B
進路の保障	進路指導	生徒に自身の姿を客観視させることで、個性や適性を認識させ、個々の適性に即した進路指導を行う。	キャリアパスポート内での振り返りを行う	振り返りの実施回数	2回	1回	0回	2回	A	実施自体はできたが、キャリアパスポートの内容の見直しが必要	A	B	
			卒業時までに3年生全員の進路を決定する	卒業式までの進路決定者の割合	90%	80%	70%	98%	A	全員とはいかなかったが、生徒はよく健闘した	A	B	
その他	総務部	PTA活動の改善・充実	進路ガイダンス、進路学習会などを計画的に行い、進路指導に関する実践をHPに掲載する	各実践の実施率	90%	80%	70%	50%	C	進路ガイダンスはコロナ禍により実施できなかった。2年生で企業ガイダンスを行えたのは良かった。魅力化推進室と他部署で大学との連携活動を進めてくださり、生徒の意識向上につながったのでありがたい	C	C	
			HP、学校説明会、体験入学を通して、本校の活動を効果的に紹介する。	1)新しいHPを活用し、PR活動に努める。 2)わかりやすい資料を使って学校説明を行う。 3)体験入学の方法を工夫し、効果的なPR活動を行う。	志願倍率	>1	>0.9	>0.9	105%	A	総会、PTA活動の日は中止となったが、収穫祭において保護者限定販売展示をしたところ、66%の参加が有り満足いただいた収穫祭であった。	A	C
その他	総務部	広報活動の充実	総会、PTA活動の日、収穫祭での保護者の参加を促し、保護者中心の運営を行う。	総会、PTA活動の日、収穫祭でそれぞれ保護者参加率	30%	20%	10%	-	A	総会、PTA活動の日には中止となったが、収穫祭において保護者限定販売展示をしたところ、66%の参加が有り満足いただいた収穫祭であった。	A	C	
			HP、学校説明会、体験入学を通して、本校の活動を効果的に紹介する。	1)新しいHPを活用し、PR活動に努める。 2)わかりやすい資料を使って学校説明を行う。 3)体験入学の方法を工夫し、効果的なPR活動を行う。	志願倍率	>1	>0.9	>0.9	105%	A	魅力化推進室と連携を図りながら本校PR動画、パンフレットを新年度版として作成し、各中学校へ配布しPR活動を行った。又、本年HPをリニューアルし本校の情報発信を行った。体験入学の充実により志願者倍率が上がった。	A	A

## <次年度に向けての改善方策>

- ・学校目標等を生徒と教員間で様々な場面をとおして情報共有し、生徒の主体性を醸成する。
- ・課題研究を柱とした魅力化を推進し、生徒の学びの深化が進路実現につながるよう教員間の情報共有を図る。